

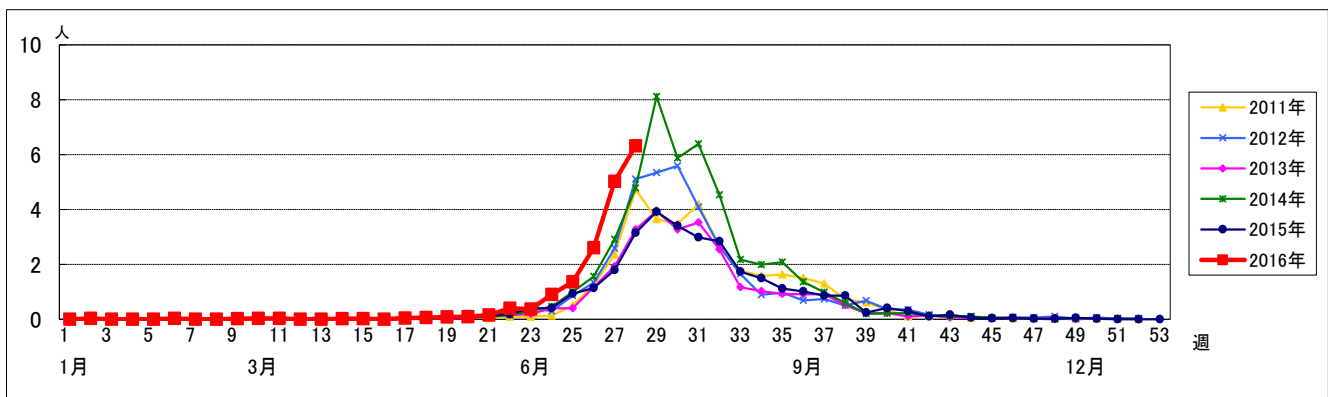
ヘルパンギーナが流行しています。

【概況】

2016年第28週(7月11日～17日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で**6.31**と、流行警報発令基準値6.00を上回りました。直近5週間の報告患者の年齢構成は**1歳(27.1%)**が最も多く、次に2歳(19.9%)、3歳(13.7%)となっており、**0～5歳までで全体の89.7%**を占めています。今シーズンにおける市内の患者からは、**コクサッキーA群ウイルス**が検出されています。今後さらなる流行拡大が予想されるために**注意が必要です**。

※1 定点とは、毎週患者発生状況を報告していただいている医療機関(ヘルパンギーナは小児科定点94か所から報告されています)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第26週2.60、第27週5.02から**第28週6.31**と増加し、警報レベルを上回りました。

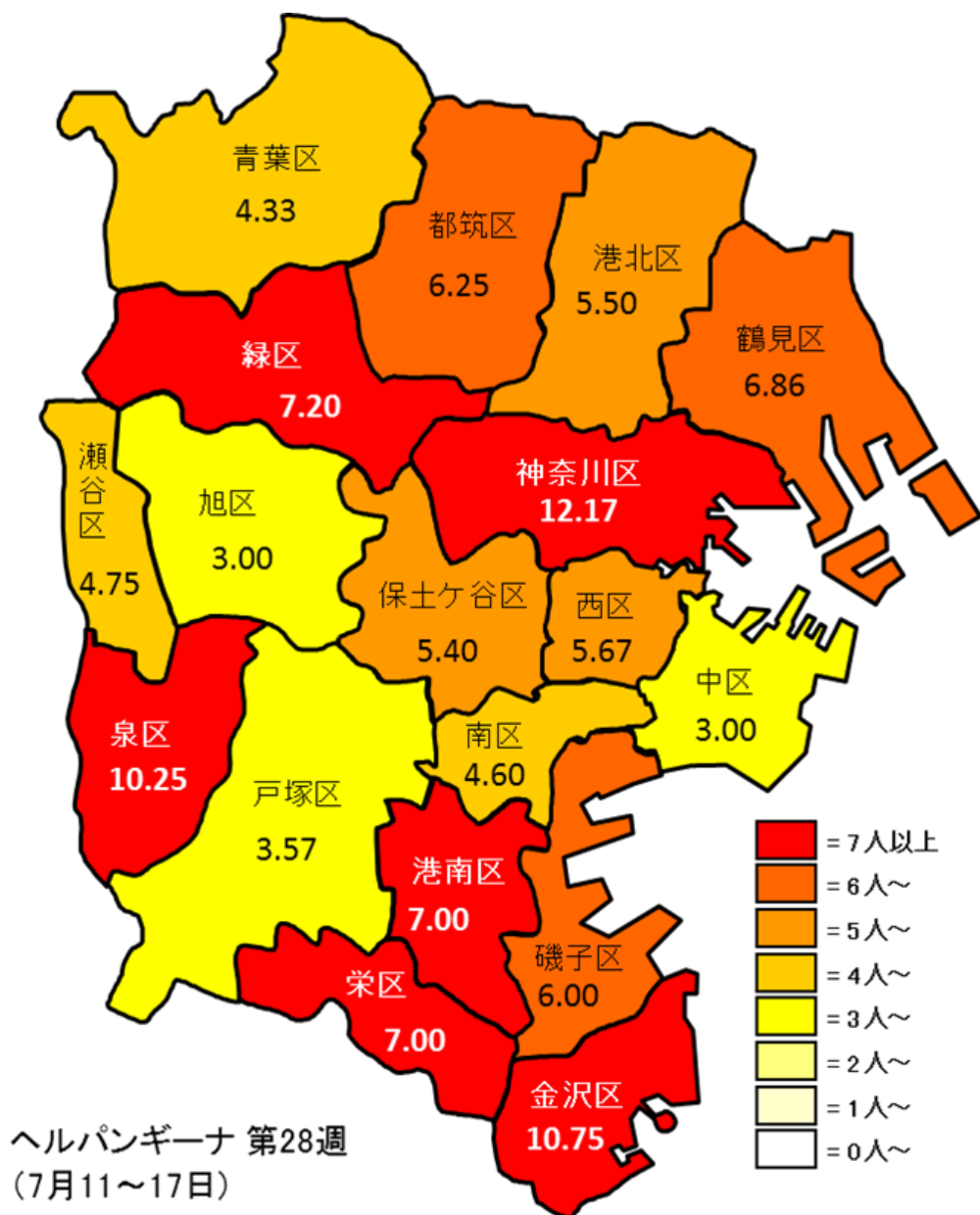


ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは3～6日の潜伏期間の後、突然の高熱に続く咽頭痛が出現するウイルスによる感染症です。発熱時に熱性けいれんを起こすことがあります。咽頭粘膜は赤くなり、特にのどの奥に小さな水ぶくれ・潰瘍を形成します。通常は1週間程度で治ります。ただし、まれに髄膜炎などの重い合併症が起こる場合もありますので、発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに医療機関に受診しましょう。

感染経路は接触感染、経口感染、飛沫感染で、予防のためには手洗い、うがい大切です。特に便からは数週～数か月ほど病原体が排出されるため、おむつ交換後などは、よく手を洗いましょう。

2 区別流行状況:区別では、第 28 週では 9 区が流行警報発令基準値 6.00 を超えています。



※戸塚区は第 28 週では 3.57 ですが、第 27 週で既に 6.00 となり、警報レベルが続いています。

学校保健安全法での取り扱い

本疾患は学校において予防すべき感染症の第 1 種～3 種には含まれていませんが、[「学校において予防すべき感染症の解説」](#)(文部科学省)では、「全身状態が安定している場合は登校(園)可能であるが、長期間、便からウイルスが排出されるので、手洗い(特に排便後、排泄物の後始末後)の励行が重要。」と記載されています。登校・登園については、主治医に相談することが望ましいでしょう。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237